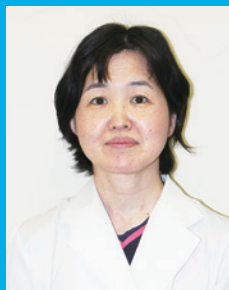


CLOSE UP!



■説明は  
徳島大学病院  
高次歯科診療部  
(小児摂食・嚥下機能発  
達部門)  
部門長  
**上田 公子**  
(うえだ きみこ)

■お問い合わせ先  
Tel: 088-633-7373  
(小児歯科外来)

## 患者さんへひとこと

お子様の「食えること」でお困りの事や、相談したいことがあれば、小さなことでもかまいませんのでお気軽に受診ください。

# 小児摂食・嚥下機能 発達部門(小児摂食外来) について



本院の高次歯科診療部小児摂食・嚥下機能発達部門(小児摂食外来)では「食えること」に悩まれているお子様と保護者の方に対する支援を行っています。今回は小児摂食外来の取り組みについてご紹介します。

## ● 摂食・嚥下機能とは

食物を口に入れて、噛んだり、飲み込んだりして、食道をとおり胃まで送る働きを「摂食・嚥下機能」といいます。私たちが普段何気なく行っていることですが、生まれ持った機能だけでなく、後天的に学習して獲得する機能も含まれ、神経、筋肉の動きや認知機能等、様々な機能を統合して行っています。子供達のなかには機能の発達遅延等により、噛めない、飲み込めないといった「食えること」が難しい子供がいます。

## ● 徳島大学病院での取り組み

徳島大学病院では、平成11年1月より摂食・嚥下機能に障害があるお子様の支援を開始しました。他の病院や本院小児科等からのご紹介で受診される方が多く、年齢としては1歳前後のお子様が多く、4～5歳のお子様や、心因性の摂食障害で受診される十歳前後の方もいます。

診察は、お子様の普段の状況を確認させていただくために、できる限り一般家庭に近い雰囲気専用の個室で行っています。支援の方法

としては、まず何に困っているのか、どんな風に生活されているのか、機能的なこと等問診票を用い、詳しくお話しをお聞きます。検査の実施が難しいことがほとんどのため、お口の中の状態の確認とお子様の様子を観察し、お話の中から検査に代わる情報もお聞きます。

それから誤飲・誤嚥の危険性の低い食べ物をお子様が実際に食べるのを確認したところで、保護者の方とご相談し、ご家庭でも実践可能な改善方法を探っていきます。誰にでも当て嵌まるプログラムがあればよいのですが、お子様によって状態は様々で、家庭環



## ● 課題

本来であれば、支援をしなければならない低年齢のお子様はたくさんいると思われますが、全ての方に支援は行き届いていないのが現状ではないかと思えます。今後の課題としては、摂食・嚥下機能に障害がでることの多いダウン症等の

境も違うため、お子様や保護者の方の状況に合わせて改善方法をご提案しています。その後は、お子様の様子を見ながら、外来に来ていただく頻度を判断しつつ、少しでも前へ進めることを、お子様や保護者の方と一緒に目指していきます。

お子様について、月齢9～10ヶ月頃に全員をスクリーニングし、支援が必要なお子様に手が差し伸べられるようにできれば理想的とは考えています。人手不足の問題はありますが、できる限り子供達のお役に立てればと考えています。



治療を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補(治験薬)あるいは医療機器を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

●尿路上皮癌  
●腎細胞癌 ●肺癌  
●筋層浸潤性膀胱癌  
●転移性去勢抵抗性前立腺癌

●肝細胞癌 ●肝硬変  
●多発性骨髄腫  
●慢性動脈閉塞症  
●潰瘍性大腸炎  
●クローン病 ●大うつ病

●心臓リハビリテーションの  
適応となる心疾患  
●滲出型加齢黄斑変性  
●小児2型糖尿病  
●てんかん ●網膜静脈閉塞症



ちけん君は  
日本医師会治験促進センターの  
キャラクターです。

問合せ：総合臨床研究センター  
tel.088-633-9294

ご協力  
お願いします。